九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 濱一衛先生の思い出

森川, 登美江
大分大学 : 名誉教授

https://hdl.handle.net/2324/1916226

出版情報：“《春水》手稿与日中文学交流 : 周作人、冰心、滨一卫” 国际学术研讨会论文集. 1, pp.211-211, 2018-02-06. 九州大学QR プログラム「人社系アジア研究活性化重点支援」「新資料発見に伴う東アジア文化研究の多角的展開、および国際研究拠点の構築」
バージョン：
権利関係：

# 濱一衛先生の思い出

大分大学名誉教授　　森川 登美江

濱先生は私にとって生涯で出会った一番怖い先生でした。しかし、ある日たまたま濱先生の演習を覗いた中国文学研究室の大先輩が「濱先生が優しくなられていてびっくりしました。定年前になると優しくなられるのかしら？」とおっしゃったのでこちらが驚きました。青年期・壮年期にはどんなに厳しい先生であったのか想像もつきません。

演習では『野猪林』などの戯曲を読みました。先生の京劇に対する溢れるような愛の詰まった授業でした。先生のご研究は『日本芸能の源流』という大部な著作に結実しました。しばらくしてそれが古本屋で値上がりしていることが分かり、先生がほっとしたご様子で「これで売っていただいても皆さんに迷惑をかけずにすみます」とおっしゃったのが記憶に残っています。

しかし、何よりも私にとって印象深かったのは、北京留学中、周作人さんのお宅に下宿しておられた先生が、時々「周さんは中国では漢奸と言われているが決してそうではない。何とか日中間に戦争を起こさせまいとして苦心されたのです」と話しておられたことでした。そのときの先生は辛そうで、悲しそうで、本当に周さんを思いやる気持ちに溢れておられるように見受けられました。私も中国現代史が見直されて、周作人さんの名誉回復が実現することを願わずにはいられませんでした。そんな貴重なお話を直接伺う機会があったことは、中国現代史を考える上で大きな示唆になったような気がします。冰心さんのお名前は伺ったことがあるように思いますが、『春水』手稿については残念ながら記憶にありません。でも今回の発見をきっとあの世で大喜びしておられることでしょう。

私は不肖の弟子で、大分大学に赴任して「アジア学」を担当するようになって以来、専門外の講義の準備に追われてアジア各国を飛び回るようになり、中国文学からすっかり遠ざかってしまいました。挙句の果てに退職後は福岡に舞い戻り、これまでに集めた民族衣装や民芸品を展示した「福岡アジア文化センター」を中央区梅光園に開設する羽目になってしまいましたが、濱先生から受けた学恩は終生忘れずに大事にしていきたいと思っています。